

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度

学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

教育環境の充実

4年間を見据えた取組内容

地域との協働推進→(2020年度～)学校安全の推進

2019年(平成31年)度

2020年(令和2年)度

2021年(令和3年)度

2022年(令和4年)度

期 首 入 力	学校の 実態と課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・坂道での事故(ケガ)が目立つ。地域やPTAと協力して安全教育に努める。 ・「主体的・対話的で深い学び」について校内研究にて取り組んできたが、さらに「学び合う」学習についての教師の指導力向上に努めている。 ・少子高齢化の中、池子地区では「子ども会」が廃止となった。地域では「子ども会」に代わる組織を検討している。学校(PTA)が協力しての教育環境を構築していく。 ・学校の教育活動を積極的に公開するとともに、学校関係者評価委員会・学校評議員会を反映させた学校運営を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルが整備されておらず、情勢の変化に対応しきれていない。 ・学校事故対応についての教職員の間の共通理解が不十分である。 ・「新型コロナウイルス感染症予防」というこれまで経験したことのない課題が生じている。 ・学校施設・設備に危険箇所や防犯上問題のある箇所がいくつか見られる。また、管理体制にも課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全のための取り組みには、これで終わり、ということはない。今後も全教職員がその認識を持ち、改善を続けていく。 ・学校が取り組んでいる学校安全の推進の具体を保護者や地域に周知し、協力を求めている。 ・地域の特性として校庭等学校施設を地域住民が利用することが多いため、授業時間中、早朝・夜間や休日の門の施錠が難しい。市役所の関係部署にも協力をしていたら、学校施設・学校敷地の管理体制を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルを学校外の人にもわかりやすいように簡潔明瞭なものに順次変更していきたい。年度中に起きた気象災害への対応の際に、現在の防災マニュアルの示し方では保護者に内容が十分に伝わっていないことを痛感した。 ・地域と連携した学校施設の有効活用を考えていきたい。多くの人が学校を利用することで、施設の安全性を点検する機会が増えたり、学校を見る目に変化が起きたりすることを期待したい。 ・来年度から授業での使用がなくなるプールの管理方法を考える必要がある。
	年度目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」における校内研究を実施し、教師の指導力を高め、子どもたちの「学び合い」の質を高める。 ・地域や保護者の学校への関わりを増やし学校理解を深め、地域と連携した開かれた学校づくりを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な学校づくりに向けての取り組みを、全教職員で、地域住民や保護者と連携して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な学校づくりに向けての取り組みを、全教職員で、地域住民や保護者と連携して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な学校づくりに向けての取り組みを、全教職員で、地域住民や保護者と連携して進めていく。
	取組計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働推進 学校行事の中において、今まで以上の地域教育力の活用を試みる。また、地域に対しても学校として協力できることを実行していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの改訂 ・学校事故の未然防止と、万一の際に最善が尽くせる学校態勢づくり ・新型コロナウイルス感染症予防対策 ・危険箇所、問題箇所の把握と対策の構築 ・安全のための管理体制の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの再点検 ・学校事故の未然防止と、万一の際に最善が尽くせる学校態勢づくり ・新型コロナウイルス感染症予防対策 ・危険箇所、問題箇所の把握と対策の構築 ・安全のための管理体制の見直し ・保護者・地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校事故の未然防止と、万一に備え被害を最小限に留めるための適切な対応がとれるよう学校体制を整える。 ・誰が見てもわかりやすい防災マニュアルへと更新していくと共に、保護者の防災意識の啓発に努める。 ・地域の見守り隊、保護者の見守りサポーターと情報交換を密にし、その内容を見守りへの安全指導に生かす。 ・地域教育協議会で、学校施設の有効活用を検討する。

期 末 入 力	実践した 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳を中心とした校内研究を、逗子市教育委員会委託研究において、研究講師の指導を受けながら取り組んだ。 ・地域教育力を活用し、ゲストティーチャー招いての様々な体験活動を行った。 ・池子体育会やPTAと協力し、地域の方との交流を図った。 ・学校行事に地域の方を招いたり、地域の行事へ児童や教職員が参加したりすることで地域との交流を深めた。 ・学校だよりの発行や、学校ホームページを更新することで、情報発信をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの改訂は、年度当初だけでなく、年度途中でも支障を感じたところに対して行った。 ・学校事故防止会議では、他所の学校で実際に起きたことで、且つ本校でも起こる可能性の高い事例を取り上げ、未然防止のために学校として何をすべきかの共通理解を図った。 ・感染拡大状況に応じて、具体的にどのような感染予防対策をとるかを職員会議で担当から提案し、全教職員の共通理解の下で実践した。 ・毎月の安全点検時はもとより、日々の生活の中で問題を感じた箇所についての報告を受け、可能な範囲での対策をとった。 ・児童指導部、保健・安全・給食部が担当する業務内容の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルに沿って校内の安全点検、避難訓練、非常時対応を行った。その都度反省をまとめ、問題点の解決を図った。 ・学校事故防止会議では、他所の学校で実際に起きたことで、且つ本校でも起こる可能性の高い事例を取り上げ、未然防止のために学校として何をすべきかの共通理解を図った。 ・感染拡大状況に応じて、具体的にどのような感染予防対策をとるかを職員会議で担当から提案し、全教職員の共通理解の下で実践した。 ・保護者・地域とは、感染拡大状況を見ながら、可能な限り直接関わり合う機会を設けた。やむを得ない場合は、オンラインも活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での歩行に係る表示を作成して、児童に安全な移動を心がけるよう指導した。 ・年間を通じて、防災マニュアルに沿っての校内の安全点検・避難訓練、非常時対応を行った。実際の動きの中で共通理解を深める必要性を感じたことについては、事後の全体の反省の場で全教職員で確認した。 ・年度初めの各学年の懇話会で、大規模地震が発生した場合、及び、気象災害時の対応について説明した。在宅時の対応について学校が示すのはあくまでも原則であり、子どもの安全確保を最優先に保護者が最終的な判断するものであることを強調した。 ・子どもの登下校の安全に係る情報交換を、住民自治協議会、池小キッズサポーター、学校の三者間で行った。
	達成度 評価	A	A	A	A
	評価の 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア、昔あそび、しめ縄作り、稲作、防災教育、いじめ防止など地域からゲストティーチャーを招き指導いただき、地域の方と触れ合いながら様々な学習を行うことができた。 ・池子体育会やPTAと連携し、地域との交流を深めることができた。 ・地域の方を学校行事に招いたり、学校だよりの発行や学校ホームページによる情報発信をしたりすることで、学校公開に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も経験したことのないコロナ禍という事態の中で、教職員全員が、それぞれの担当する部署において、学校安全のために最善を尽くした。その取り組みは保護者や地域にも理解されていると、限られた交流の中ではあるが、感じることができた。感染予防については、消毒作業等において保護者からも多大な協力を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの教員が防災マニュアルの内容を把握し、学校安全のための取り組みに主体的に参加した。 ・感染防止については、昨年度の実験を活かして、先を見越しての対応をとることができた。「コロナだからできないから」コロナだから、どうしたらできるか「何ができるか」へと、意識の持ち方が変わった。 ・昨年度よりも、保護者や地域と直接関わり、連携をとる機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内を無秩序に走り回る児童による衝突事故が1年の間に2回発生したことから、校舎内の見通しがきかない箇所のうち特に危険度が高い所への対策をとった。 ・逗子市内公立小中学校と連携して、「気象災害時の対応」をフローチャート図の分りやすいものにした。 ・様々な行事が復活し始め、地域、保護者との繋がりが深まった。

学校の 実態を踏 まえた課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」について校内研究を進めてきたが、委託研究のまとめの2年目となる次年度は、池子小教師集団の更なる指導力向上を目指す。 ・地域の方が非常に協力的で、恵まれた環境にある。今年度も様々な形で、学校安全、学校支援に生かすことができた。 ・今後は、更に、学校目標やめざす子ども像に向けた、地域との連携を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全のための取り組みには、これで終わり、ということはない。今後も全教職員がその認識を持ち、改善を続けていく。 ・学校が取り組んでいる学校安全の推進の具体を保護者や地域に周知し、協力を求めている。 ・地域の特性として校庭等学校施設を地域住民が利用することが多いため、授業時間中、早朝・夜間や休日の門の施錠が難しい。市役所の関係部署にも協力をしていたら、学校施設・学校敷地の管理体制を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルを学校外の人にもわかりやすいように簡潔明瞭なものに順次変更していき、年度中に起きた気象災害への対応の際に、現在の防災マニュアルの示し方では保護者に内容が十分に伝わっていないことを痛感した。 ・地域と連携した学校施設の有効活用を考えていきたい。多くの人が学校を利用することで、施設の安全性を点検する機会が増えたり、学校を見る目に変化が起きたりすることを期待したい。 ・来年度から授業での使用がなくなるプールの管理方法を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内、校庭での子ども同士の衝突事故防止のために、対策をとらなければいけない箇所がまだ残っている。 ・土曜日や夕刻時の、現在市の学校施設開放業務に当たらない時間帯での学校施設の有効活用は、防犯対策を万全にした上であれば大いに進めるべきと考え、それを担うのは学校ではないだろう。市と地域の協力による実現を期待する。 ・利用しなくなったプールの荒廃がどんどん進んでいる。早急に対策を講じた。
--------------------------	---	---	---	--

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

柱Ⅰ		学習指導の充実		4年間を見据えた取組内容		授業改善			
		2019年(平成31年)度		2020年(令和2年)度		2021年(令和3年)度		2022年(令和4年)度	
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	<p>・本校の児童は、明るく、やさしい子が多く、子どもらしき素直である。大人を信用し純粋な心を持ち合わせ、規範意識も高く問題行動を起こすことは少ない。反面、何か想定外のことが起きると、自分で解決できず困ってしまうことが多い。</p> <p>・子どもらしい素直な考えやユニークな発想があるにもかかわらず、それを表現することが苦手である。</p> <p>・本校の児童にとって、「自信をもち活動する」「思考を深める」ことが最も大切な課題である。</p>		<p>・視点(1)「道徳的価値への出合わせ方」では、「行為とその行為を生む心についての分析を通じた道徳的価値の把握」と「問題解決意欲の醸成」に成果がみられたが、「導入の時間配分」が課題となった。</p> <p>・視点(2)「他者の考えとのかわらせ方」では、「ふり返しによる思考の拡充」に成果がみられたが、①「象徴的な行為の明確化」②「展開時における行為を生む心の道徳的意味付け」③「構造的な板書の在り方」④「思考する時間の確保」の4つが課題となった。</p>		<p>【校内研究:道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、家庭や地域社会との連携による指導、等の視点も加味し、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することを研究の重点課題として捉える。 <p>【指導と評価の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果の評価ではなく、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを確立するための評価を目指す。 		<p>【校内研究】</p> <p>道徳の授業研究には一区切りをつけ、来年度は新たな研究課題を設定する。本校の児童の実態を捉えた上で考えていきたい。小規模校であることを最大限いかして多様な学習形態をとり、個別最適な学びと協働的な学びの実現につながる研究となることを望んでいる。</p> <p>【教育におけるデジタル化】</p> <p>急速に進むデジタル化に対応できる力を学校として備えなければいけない。同時にデジタル化の問題点も把握して、バランスのとれた利活用をしていきたい。</p>	
	年度目 標	<p>・今年度の「目指す子どもの姿」は「自己を見つめ直す姿」とする。</p> <p>・自己理解のためには「自分自身を振り返ることで自己を見つめなおすこと」と「他者と考えを交流することで自己を見つめなおすこと」が必要であるので、道徳的価値とこれまでの経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めさせていく。</p>		<p>・「池子小学校の道徳の授業」の構築</p> <p>・新学習指導要領が目指す資質・能力の育成に向けた授業改善</p>		<p>・「池子小学校の道徳の授業」の構築</p> <p>・新学習指導要領が目指す資質・能力の育成に向けた授業改善</p>		<p>・校内研究への取り組みを通して、自他を大切にして、学び合い、支え合う職員集団となることを目指す。</p> <p>・「個に応じた教育」の実現のために多様な学習形態を探る。</p> <p>・効果的且つ安全にICTを活用した学習を展開する。</p>	
	取組計 画	<p>・授業改善</p> <p>研究講師を招いての年間7回の授業研究会(内6回目は逗子市教委委託研究発表会)を行い、校内研究を行う。</p>		<p>・委託研究発表会の開催に向けて、校内研究を進める。</p> <p>・指導と評価の一体化を図る。</p>		<p>・委託研究発表会の開催に向けて、校内研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における学校での学習のあり方を探る。 ・小規模校であることを最大限いかして多様な学習形態をとり、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。 		<p>・教員一人ひとりがそれぞれの「目指す子ども像」を明確にし、教員間で共有し、そのための教育実践を共に生み出していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に応じて、また、個に応じて、小規模校の良さを活かした多様な学習形態をとり、子どもの学びの状況を適切に見取る。 ・ICTを活用した授業実践に資する校内研修会を開催する。また、互いの実践についての情報交換を密にする。 	
期 末 入 力	実践した 内容	<p>①年間7回の校内研究全体会では、研究授業における「道徳的価値への出合わせ方」(道徳以外の教科では「学習課題への出合わせ方」)と「他者の考えとのかわらせ方」についてグループごとにワークショップ型の討議を行い、研究講師の助言を受けながら教員個々の授業力向上を目指す。</p> <p>②学び合う学習をとおして子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていき、教師のフロンティア(指導技術)についてスキルアップをねらう。</p> <p>③健康教育においてPTAと連携し、食育講演会を開いたり「健康体操」を促したりして、健康に対する意識向上を図る。</p>		<p>【校内研究:道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために、委託研究発表会は開催できなかったことで、来年度に向けて授業力の向上に努めた。 ・校内研究全体会としては、年間計画1回、授業研究会2回、研修会1回、まとめ1回の計5回を行った。 ・道徳科の特質を生かした学習指導の展開を意識した授業実践がなされた。 <p>【指導と評価の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領下での学習評価の在り方について自主的に研修を積み重ね、学習評価の妥当性、信頼性を高めるよう努めた。 		<p>【校内研究:道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縮小した形での委託研究発表会を開催した。少数ではあったが、市内各校から参加者があり、3年間の研究成果を示すことができた。 ・道徳科の特質をいかした学習指導の展開を意識した授業実践がなされた。 <p>【コロナ禍における学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に一人一台配置されたクロームブックを活用した授業実践がなされた。 		<p>・研究推進のために、全体会とチーム会の二体制で毎月協議を重ねた。外部から講師を招いての学習会を3回行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生の算数の授業で、担任・TTの3人体制でクラス解体をして習熟度別グループ指導を一部に取り入れた。4年生では、同時刻に同内容の授業を行って、オンラインでつなげたり教室移動を認めたりしての学年一斉指導を複数の教科で取り入れた。 ・算数のデジタル教科書が全学年で利用できる環境が整ったことを受けて、校内での講習会を年間2回開催した。デジタル教科書の利用を進めた。 	
	達成度 評価	A		A		A		A	
	評価の 根拠	<p>・本年度の校内研究は研究主題を「自己を見つめ直す子の育成 ～学び合う学習の創造を通して～」とし、道徳科を中心として専科(音楽・理科)および特別支援の授業研究に取り組んだ。</p> <p>・昨年度の研究において、子どもたちの「根拠を明確にした伝達能力」や「話し合いを深めるための個々の考えを確立すること」が課題としてあげられたことから、今年度の研究の視点を2つ、①「道徳的価値への出合わせ方」②「他者の考えとのかわらせ方」とした。</p> <p>・課題に係る児童の実態把握」「課題設定」「導入」「発問」「問い返し」「板書」「振り返り」などに式し授業実践を研究を重ねていく中で、子どもたちが「自分も友だちも納得できるような考え」を見つめようとする姿が多くみられるようになってきた。また、「学び合い」の質が高まってきていると感じられるようになってきた。</p>		<p>【校内研究:道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修主題に迫るための視点を「他者とのかわらせ方」に絞って、授業研究に取り組んだことで、論議が活発化した。 ・全体会・ブロック会を通じて道徳の授業への考え方が共有され、一人ひとりの教師の授業力向上につながった。 <p>【指導と評価の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況の評価の方法や、「十分満足できる状況」とらえ方について教職員間で共通理解を図ったうえで、それぞれが学習評価にあたることができた。 		<p>【校内研究:道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的理解から児童の実感を伴った理解につなげるための発問を中心に据えた授業展開となるよう、教員が協働して指導案検討に取り組んだ。 ・人間のよさを多面的かつ多角的に考える道徳の授業を目指して授業研究に取り組んだ。 ・道徳の授業づくりへの取り組みから得られた知見が、他教科の授業づくりにも繋がった。 <p>【コロナ禍における学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で自主的に研修会を開く等、全ての教員がクロームブック活用に前向きに取り組んだ。状況に応じてオンライン授業も行った。 		<p>・成果を示すことにとらわれず、一人ひとりの教員が自分のペースでじっくりと研究に取り組むことができていた。教員同士で授業づくりや子どもの見取りについての話し合いを深め、自主的に授業を公開したり、他年度の授業観察に行ったりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の枠にとらわれずに学年として教科学習を展開していくことを考えて実践する教員が増えてきている。 ・算数の授業では、全学年でデジタル教科書の利点を生かした活用がなされている。 	
学校の 実態を踏 まえた課 題	<p>・視点(1)「道徳的価値への出合わせ方」では、「行為とその行為を生む心についての分析を通じた道徳的価値の把握」と「問題解決意欲の醸成」に成果がみられたが、「導入の時間配分」が課題となった。</p> <p>・視点(2)「他者の考えとのかわらせ方」では、「ふり返しによる思考の拡充」に成果がみられたが、①「象徴的な行為の明確化」②「展開時における行為を生む心の道徳的意味付け」③「構造的な板書の在り方」④「思考する時間の確保」の4つが課題となった。</p>		<p>【校内研究:道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、家庭や地域社会との連携による指導、等の視点も加味し、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することを研究の重点課題として捉える。 <p>【指導と評価の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果の評価ではなく、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを確立するための評価を目指す。 		<p>【校内研究】</p> <p>道徳の授業研究には一区切りをつけ、来年度は新たな研究課題を設定する。本校の児童の実態を捉えた上で考えていきたい。小規模校であることを最大限いかして多様な学習形態をとり、個別最適な学びと協働的な学びの実現につながる研究となることを望んでいる。</p> <p>【教育におけるデジタル化】</p> <p>急速に進むデジタル化に対応できる力を学校として備えなければいけない。同時にデジタル化の問題点も把握して、バランスのとれた利活用をしていきたい。</p>		<p>・校内研究については、単なる方法論に留まらない授業づくり論が教員の間で深まっていくことを期待している。成果の発表よりも、「自分達はこのような授業づくりをしたのだが、皆さんどう思いますか?」という発信・提案に軸をおいたまともな方になるよう、取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池子小学校だからできる「授業実践を推進していきたい」。 ・教育のDX化に対応できる教員集団となれるよう、教職員間での協力体制を作っていく。また、児童のITリテラシーの差を縮めた。 		

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

柱Ⅱ		支援の充実	4年間を見据えた取組内容	支援環境の充実	
		2019年(平成31年)度	2020年(令和2年)度	2021年(令和3年)度	2022年(令和4年)度
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	・様々な教育的ニーズを抱えている子どもの指導について、保護者の理解・協力を得ながら効果的に対応していく必要がある。	・本年度も保護者と連携し、校内支援体制の充実を図りながら、教育的ニーズのある児童に対して、できるだけ個別の支援を講じてきた。次年度も限られた人的資源の中、様々な教育的ニーズに対応していく必要がある。 ・近年、通常級から特別支援級への措置替えのケースが増えている。個々の児童の発達段階やその度合いに応じての措置替えの時期や実施の有無については、本人ならびに保護者の気持ちを十分考慮しながら、専門的なアドバイスの下、適正な判断が求められる。更に教育相談体制を整えていく必要がある。	・共生社会の実現を目指してインクルーシブな学校づくりに取り組んでいるということを保護者や地域にも周知し、理解と協力を得られるようにする。 ・教育相談コーディネーターがコーディネート業務に当たる時間を確保できる よう、校内で協力体制をつくる。 ・全ての児童の教育的ニーズに適切に対応できるよう、教職員の一人ひとりが個を見取る力を高めるよう努める。	・引き続き、共生社会の実現を目指してインクルーシブな学校づくりに取り組んでいるということを保護者や地域にも周知し、理解と協力を得られるようにする。 ・校内支援体制については常に見直し、そのときの児童の実態、職員の状況に合わせて、より良いものにしていく。 ・全ての児童の教育的ニーズに適切に対応できるよう、教職員の一人ひとりが個を見取る力を高めるよう努める。
	年度目 標	・児童の実態把握とともに、校内支援委員会の充実を図り、機動的・効果的な対応を目指す。 ・インクルーシブ教育の推進においては、共生社会の実現に向け誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合うことができるようにする。校内研究を通じて、子ども同士が関わり合い、相互理解が深まる教育活動を充実させていく。	校内支援体制の充実 ・全教職員の共通理解の下で支援教育を進めること ・保護者の信頼を得られる体制であること ・外部組織と適切に連携をとること	・校内支援体制の充実 ・インクルーシブ教育の推進～共生社会の担い手を育む教育活動～	・校内支援体制の充実 ・インクルーシブ教育の推進～共生社会の担い手を育む教育活動～
	取組計 画	・支援環境の充実 教育的ニーズのある児童が安心して過ごせる学習集団を育てるとともに、個々の児童のアセスメントを基に「支援シート」を作成し組織的な対応を進める。	・校内支援委員会の開催(原則月1回) 要支援児童についての経過確認、情報交換、指導計画 校内の他の要支援状況の確認 外部機関との連携 ・拡大支援委員会の開催(適宜) 支援教育についての共通理解 研修	・校内支援委員会と拡大支援委員会の定期的な開催 要支援児童についての経過確認、情報交換、指導計画 校内の他の要支援状況の確認 外部機関との連携 研修 ・保護者や地域住民への、支援教育に関する適切な情報提供と意見交換	・校内支援委員会の活性化と機能の拡充 「情報交換→支援の必要性の把握→支援方策の具体化→実態把握と評価→見直し」というサイクルの定着を図る。 必要に応じて積極的に専門家チームとの連携を図る。 ・保護者や地域住民への、支援教育に関する適切な情報提供と意見交換を行う。 ・児童の支援教育への理解を深めるための指導を行う。
期 末 入 力	実践した 内容	①教育的ニーズをもつ児童の支援について、その進捗状況を校内支援委員会にて定期的にチェックし見直しを行う。 ②教育研究相談センター、子ども発達支援センター、通級指導教室、適応指導教室、児童相談所、県立養護学校などの各種専門機関と連携し、特に、スクールカウンセラーや巡回指導員の指導・助言、児童相談所との情報連携および相談、県立養護学校による地域支援などを受けながら、保護者との教育相談を深め、よりよい児童支援に生かす。 ③通常級に在籍する個別指導が必要な児童について、教育相談コーディネーターの調整の下、限られた援助資源(指導者)を活用して支援にあたる。	・校内支援委員会で児童の情報交換を深め、支援が必要と判断された児童については、校内での支援体制を組んで対応した。 ・SC、SSW、教育研究相談センター、療育センター、通級指導教室等の外部機関と連携して、要支援児童についての理解を深めて適切な指導の在り方を探った。 ・拡大支援委員会では、明らかに発達課題を抱えている子だけでなく、「気になる子」という視点からも情報交換を行った。	・校内支援委員会と拡大支援委員会のそれぞれの役割と取り扱う内容を明確化し、計画に基づいて運営した。 ・SC、SSW、教育研究相談センター、療育センター、通級指導教室等の外部機関と連携して、要支援児童についての理解を深めて適切な指導の在り方を探った。 ・神奈川県教育委員会の指導主事を招聘したインクルーシブ教育の研修会を年間2回開催した。 ・年度初めの各学年の懇談会で、インクルーシブ教育推進次の説明をした。	・校内支援委員会と拡大支援委員会のそれぞれの役割と取り扱う内容を明確化し、計画に基づいて運営した。 ・SC、SSW、教育研究相談センター、療育センター、通級指導教室等の外部機関と連携して、要支援児童についての理解を深めて適切な指導の在り方を探った。 ・県教育委員会インクルーシブ教育推進課の指導主事を招いて「インクルーシブな視点で授業を考える」という学習会を実施した。 ・年度初めの各学年の懇談会で、インクルーシブ教育推進次の説明をした。
	達成度 評価	B	A	A	A
	評価の 根拠	・児童や保護者の気持ちに寄り添い関係諸機関と連携し、支援シートの作成や定期的な見直しを通じて支援にあたってきた。 ・限られた人的資源を計画的に活用し、教育相談コーディネーターの調整の下、個別指導が必要な児童に対して、取り出しによる個別対応を行った。 ・保護者との度重なる相談、スクールカウンセラーなどからの指導を通じて丁寧な教育相談を進め、通常級から特別支援級への措置替えを行った。 ・教職員が共通理解をもって個々の児童の指導にあたることができるよう、支援会議を定期的実施し、全校体制にて児童支援を行った。	・教育相談コーディネーターを中心とする校内支援体制の構築が進んだ。 ・教職員の間でインクルーシブ教育についての理解が進んだ。	・要支援児童への対応に、必要に応じて、担任だけに負担がかからないよう、教育相談コーディネーターの計画に基づいて、全教員であたった。 ・教育相談コーディネーターによる支援教室での取り出し指導を、年間を通じて行った。 ・インクルーシブ教育とはどういうものか、という理解から、教員それぞれが自分はこのやり方でインクルーシブを実現させたいという考えを持つことに繋がった。 ・SC、SSW、教育研究相談センター、療育センター、通級指導教室に加えて、武山養護学校とも連携して、要支援児童についての理解を深めて適切な指導の在り方を探った。	・教育相談コーディネーターによる支援教室での取り出し指導を、年間を通じて行った。 ・一人ひとりの教員が「すべての児童を念頭に置いて授業づくり」という意識をもつようになってきている。 ・保護者にも「インクルーシブ教育」への認識が深まりつつある様子が、保護者アンケートの結果などから見てとれる。
学校の 実態を踏 まえた課 題	・本年度も保護者と連携し、校内支援体制の充実を図りながら、教育的ニーズのある児童に対して、できるだけ個別の支援を講じてきた。次年度も限られた人的資源の中、様々な教育的ニーズに対応していく必要がある。 ・近年、通常級から特別支援級への措置替えのケースが増えている。個々の児童の発達段階やその度合いに応じての措置替えの時期や実施の有無については、本人ならびに保護者の気持ちを十分考慮しながら、専門的なアドバイスの下、適正な判断が求められる。更に教育相談体制を整えていく必要がある。	・共生社会の実現を目指してインクルーシブな学校づくりに取り組んでいるということを保護者や地域にも周知し、理解と協力を得られるようにする。 ・教育相談コーディネーターがコーディネート業務に当たる時間を確保できる よう、校内で協力体制をつくる。 ・全ての児童の教育的ニーズに適切に対応できるよう、教職員の一人ひとりが個を見取る力を高めるよう努める。	・引き続き、共生社会の実現を目指してインクルーシブな学校づくりに取り組んでいるということを保護者や地域にも周知し、理解と協力を得られるようにする。 ・校内支援体制については常に見直し、そのときの児童の実態、職員の状況に合わせて、より良いものにしていく。 ・全ての児童の教育的ニーズに適切に対応できるよう、教職員の一人ひとりが個を見取る力を高めるよう努める。	・それぞれの要支援児童に必要な支援の具体については、SCやSSWを交えて保護者とよく話し合っ決めていきたい。 ・「バリアフリー、ユニバーサルデザイン等の表面的な対応だけでインクルーシブ教育とするのではなく、全ての教員の日々の授業がインクルーシブな視点で作られるようになることを目指す。 ・教職員が協働して児童の教育的ニーズに適切に対応していく。 ・SSWへのニーズが非常に高まっている。配置増を希望している。	

2019年(平成31年)度～2022年(年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

柱Ⅲ 学校組織の充実		4年間を見据えた取組内容		研究・研修の充実→(2020年度～)働き方改革の推進			
2019年(平成31年)度		2020年(令和2年)度		2021年(令和3年)度		2022年(令和4年)度	
期首入力	学校の 実態と課題	・若手や経験の少ない教員が増える中、教員一人ひとりが経験に合った研修に積極的に参加し専門的力を向上させるとともに、校内研究を含め学校内におけるOJTを組織的に推進する必要がある。	・教職員の多忙化が深刻な状況にある。 ・平成31年1月の教員の働き方改革についての中教審答申を受けて、教員が子どもたちに対して効果的な教育活動を行うための方策を、編み出していく必要がある。 ・新学習指導要領完全実施を受けて、学校の教育課程の再編をしなければいけない。	自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革を進める。	自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、業務の見直しと改善を継続し、学校における働き方改革をより一層進める必要がある。		
	年度目 標	・教員個々が市教委や県教委等が行う研修に積極的に参加する。 ・校内研究の授業研究を通じて、学校としての研修を充実させる。 ・管理職や総括教諭によるOJTを充実させる。	人間としての教師でなければならない仕事に全力投球できる環境づくりの第一歩を踏み出す。	人間としての教師でなければならない仕事に全力投球できる環境づくり	これまでに進めてきた学校における働き方改革が、教職員一人ひとりの仕事への意欲向上に繋がっているか、子どもにも運ぶものとなっているか、を検証し、今後の取り組みを具体的に示す。		
	取組計 画	・研究・研修の充実 逗子市教委委託研究の講師を招いての年間を通じた校内研究を行う。 個々の教員の授業や児童指導についての指導・助言を積み重ねていく。	・学校及び教員が担う業務の明確化と適正化 ・管理職は、教育委員会の指導・助言を受けながら、労働安全管理体制の整備に努める。 ・学校の働き方改革に向けた取り組みについて、保護者や地域住民に適切に周知していく。	・学校及び教員が担う業務の明確化と適正化 ・校務のICT化の推進 ・管理職は、教育委員会の指導・助言を受けながら、労働安全管理体制の整備に努める。 ・学校の働き方改革に向けた取り組みについて、保護者や地域住民に適切に周知し理解を求める。	・教育課程の編成・実施の検証 ・校務のICT化の有効活用 ・学校の取り組みだけでは解決できないことについての行政への提言 ・学校の働き方改革に向けた取り組みについて、保護者や地域住民に適切に周知し理解を求めると同時に、学校が地域や保護者の活動に協力する体制づくりを行う。		
	実践した 内容	・逗子市教委委託研究において、道徳を中心とした授業研究を、年間を通して講師の指導を受けながら、取り組んだ。 ・校務分掌の各部においてグループリーダーを中心に組織の見直しを行った。 ・若手教員や経験の浅い教員に対して、日常の指導・助言を行った。 ・行事の精選、事務作業時間の確保、意識改革等を通じて働き方改革を行った。	・会議や研究会、研修会の際には、事前の計画や打ち合わせを綿密に行うことにより、時間を意識した運営・進捗を心掛けた。 ・ICT環境を有効活用することで、校務に携わる時間を軽減するよう努めた。 ・新型コロナウイルス感染予防のための業務が新たに加わったので、保護者の協力を求めた。	・会議や研究会、研修会の際には、事前の計画や打ち合わせを綿密に行うことにより、時間を意識した運営・進捗を心掛けた。 ・ICT環境を有効活用することで、校務に携わる時間を軽減するよう努めた。 ・昨年度の経験を踏まえて、新型コロナウイルス感染予防のための業務の精選を図った。 ・保護者に向けて、学校の電話応対時間、まちコミを利用しての欠席連絡、代金回収業者を利用しての集金等について周知し、理解と協力を求めた。 ・勤務時間の割振りを適切に行い、教職員の健康状態に気を配った。	・朝モジュールの回数を増やし、長期休業前後の授業時間数を減らした。 ・and.Tのお知らせ機能を活用して職員打ち合わせの時間を週に1回とした。 ・校内研究での意見交流はクロームブックを活用して行っている。 ・前年度に始めた代金回収業者、インターネットバンキングの利用に加えて、使用目的に応じた口座の開設をし、集金業務と支払い業務を、より確実に行えるようにした。 ・地域の行事が復活してきたので、教職員も各自の事情に応じて負担にならない範囲で参加した。		
期末入力	達成度 評価	A	B	A	A		
	評価の 根拠	・逗子市教委委託研究では、講師の指導を受けながら授業改善に取り組み、子どもたちの「学び合い」の質が高まってきたことを感じられるようになってきた。 ・授業研究を通じて、教員同士で協力して学び合うことを重ねる中で、教員チームとしての一体感を味わうことができた。 ・子どもと触れ合う時間を確保するために、行事の精選を行うことや、教員の教材研究の時間を確保するなど、働き方改革につなげることができた。 ・巡回チームや管理職、経験のある教員による日常の指導によりOJTを行うことができた。	・新型コロナウイルス感染拡大防止のために、多くの学校行事が中止・縮小を余儀なくされたり、学校外での会議に参加することも大幅に減ったりしたが、これは意図したことでない。業務に携わる時間の総体としては減っていると言えるが、新しい生活様式での学校教育の在り方を探ることへの心労は大きかった。 ・ICT環境の有効活用は、まだ、発展途上である。	・教職員が協働して行う業務は計画的に適切な時間で行われている。 ・校内研修や教職員間での情報交換によって、教育におけるデジタル化が着実に進んでいる。 ・代金回収業者の利用については、保護者の理解と協力が全面的に得られ、教員が学校で現金を扱うことがなくなった。また、学校徴集金の長期滞納者はゼロになった。 ・勤務の割振りについて教員の理解が進み、活用されている。	・長期休業前後に一定期間給食後下校することで、児童はゆっくりと学校生活のリズムを取り戻していくことができ、教職員もその時期に集中する事務仕事に充てる時間を確保することができた。 ・年々より多くの場面でICTが有効に活用されるようになってきている。 ・学校徴集金については、保護者にとって利便性の高いシステムであることから理解が浸透し、毎月の引落し不能家庭は確実に減少しており、長期滞納につながることは皆無となっている。 ・地域行事が復活し始めたので、教職員がそれぞれに負担のない範囲で関わってきた。直接的には仕事量が増えるように見えるが、地域と関わりを持つことはまわりまわって子どもたちの育ちにつながることで、働き方改革にもつながるのだという点を教職員が理解している表れである。		
	学校の 実態を踏 まえた課 題	・逗子市教委委託研究について、来年度は2年目のまとめの期間となる。今年度の取り組みを更に深化し、教員の指導力および児童の学びの質の向上につなげていく。 ・本校児童の課題である「自信をもち活動する」「思考を深める」ことを、授業の中で、学校行事の中で、地域との関わりの中で、積み上げていく。 ・OJTによる若手や経験の浅い教員の育成と、働き方改革をさらに進めていく。	自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革を進める。	自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、業務の見直しと改善を継続し、学校における働き方改革をより一層進める必要がある。	・働き方改革に係る現在の取り組みを、より良いものに改善しながら継続していきたい。 ・次年度は、学校のおたよりのデジタル化を進めていく。 ・行政に給食費の公費計化と、徴収にかかる手数料の公費負担を求めている。 ・校務のICT化を進めることが、職員室の空間を変えることに繋がると良い。仕事が効率的に行えるだけでなく、職員間の和を生み出す空間になったらいいと思う。 ・地域と共に子どもを育てる、という視点で地域行事を見直し、学校としての関わり方を探していきたい。		